

Save Nature, Save Future.

子どもたちの未来を創る

2019 Vol.01



Mitsubishi Paper Sales Co.,Ltd.

新しい時代の幕開けとともに 経験や常識にとらわれず 新たな事業を創出する変革に挑戦



取締役社長
半田 常彰

三菱製紙販売を取り巻くステークホルダーの皆さま、日頃のご支援、心より感謝申し上げます。

当社は1912年(明治45年)に三菱製紙所(現在の三菱製紙)の西日本販売代理店として創業しました。「紙は文化のバロメーター」という言葉があるように、日本の経済発展とともに順調な成長を続けてきました。しかしながら、2008年のリーマン・ショック以降、紙の国内需要は減少の一途をたどっています。昨今、AI(人工知能)やIoT等の技術革新が急激に進んでいることを考えると、今後さらに大きな変革が起こるでしょう。紙の専門商社という枠を超え、環境の急速な変化に対応するため、事業構造の改革を推し進めなくてはなりません。

その実現のため、2019年度を初年度とする3カ年中期経営計画を策定いたしました。三菱製紙グループの一員として連結収益に貢献するとともに、これまで培ってきた経験や常識にとらわれることなく新たな事業を創出する、新しい三菱製紙販売への変革に挑戦いたします。今年5月、本店が三菱製紙グループ各社が集まる両国に移転したことも、その変革に向けた取り組みの一つです。各社が同じ場所で業務を進めることで、グループの連携がさらに強化され、三菱製紙グループの持つ力を最大限に発揮できるようになると考えています。また、本店・大阪支店の移転時に営業部署でフリーアドレスを採用しました。フリーアドレス化により部署間のコミュニケーションが促進され、新事業創出につながる新しいアイデアが生まれることを期待しています。



本店が移転した両国

ただ、三菱製紙グループや社内の力だけで新しい事業を成功させることができるとは考えていません。業界の垣根を超えて、たくさんの方々の力を借りる必要があるでしょう。振り返れば、当社の100年を超える創業から現在までの歴史も、ステークホルダーの皆さまと一緒に作り上げてきたものでした。これから私たちが目ざす新しい三菱製紙販売の姿も、皆さまとの関係の中にあると信じています。今後はさらに、これまで築いてきた関係を強化し、発展させていく必要があると感じています。業界や業種の枠を取り払って仲間を募り、各々が持つ経験や知識を共有しあうことで、新しい未来が拓けるのではないのでしょうか。たくさんのお客様の皆さまを巻き込み、共に成長を続けるために、私は自ら先頭に立って取り組みを進める所存です。



令和という新しい時代が幕を開けました。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。新たな三菱製紙販売に生まれ変わり、この時代を生き抜いていくため、私自身、全身全霊を傾けて職務を全うする所存です。当社が成長を続けることが、多くのステークホルダーの皆さまの幸せと未来を創ることに繋がると信じています。今後とも変わらぬご理解、ご支援をいただけますようよろしくお願い申し上げます。



フリーアドレスを導入した大阪支店



洋紙事業

印刷・情報用紙や板紙をはじめ、
包装用紙、衛生用紙など
幅広く販売しています。

コピー用紙



様々なニーズにこたえるために。

Safety & Health事業

テーマは「安心・安全」「健康」。
防災・備蓄品をオーダーメイドで
提案します。



携帯トイレ
マイレット



AED



ハンズフリー救護担架
イーजीレスキュー

デオドバッグ®

次世代の紙おむつ用防臭袋。
多層構造で臭気をほとんど
外に漏らしません。



紙おむつ用防臭袋
デオドバッグ



KAMIHAN

かみはんソリューション



「素材」も「ソリューション」も。



Data to Print

データ主導の紙のダイレクトメール。
顧客に適した情報を
タイムリーに届けます。

環境事業

FSC® 森林認証紙の販売、
森林保全の支援など環境事業に
積極的に取り組んでいます。



卓上時計

キーホルダー



ハートのカレンダー

紙コップ



レジロール



紙皿

紙製品

FSC商材から脱プラまで。
企画から印刷、製本、納品まで
一括で提案します。

当社は「紙」という
“素材を流通させる専門商社”として
永らく走り続けてきました。
そしていま、
“ソリューションを提案する商社”へ
変革のときを迎えています。

tion



事業紹介

洋紙事業

王子製紙製品の販売も開始！！

長年三菱製紙の国内専属販売代理店として活動してまいりましたが、近年は、王子製紙、中越パルプ工業、北越コーポレーション、大王製紙といった三菱製紙以外の製品も取り扱っております。また、販売品目も、印刷・情報用紙や板紙だけでなく、包装用紙、衛生用紙、雑種紙まで幅広く販売しています。



「紙」の幅広いニーズに
お応えいたします



洋紙二部 第2チーム
遠藤 史崇

紙製品

FSC® 商材から「脱プラ」まで
ご相談ください



直需一部 第1チーム
浅井 友樹

「紙」だからこそできることを多様にご提案いたします

素材としての紙を提供するだけでなく、素材から製品までの全てを企画・提案いたします。会社案内、CSRレポート、パンフレット、カタログ、カレンダーといった製品を企画から印刷、製本、納品まで一括で請け負うことが可能です。また、板紙を素材とした紙器、パッケージも同様に一括で受注することができます。



Safety&Health事業

安心と安全のために。防災や非常時に本当に役立つものを選定

2011年に東日本大震災を経験し、防災の重要性を再認識。「安心・安全」「健康」をキーワードにしたSafety&Health事業を立ち上げました。社員に防災士資格の取得支援を実施するなど、ただ商材を販売するのではなく、災害対策を総合的にサポートする体制を構築し、全ての人が笑顔で、安心して暮らすことができる未来の実現に挑戦しています。

経営企画部
高畑 国彦



イージーレスキュー

運び手が両手を使えるハンズフリー担架イージーレスキュー。階段やエレベーターなど、従来の担架の利用が難しい場面でも楽に移動できます。小型で軽量(約1kg・収納時はほぼA4サイズ)なのに、耐荷重は120kg。まさかのときもこれがあれば安心です。



防災・備蓄品をオーダーメイドで
ご提案いたします



直需一部 第2チーム
青木 伸一【防災士 認証者】

不動王

貼るだけで設置が簡単なのに、震度7相当の揺れにも対応。壁を傷つけず、取り外しも簡単です。



緊急地震速報端末(地震の見張り番)

地震の揺れが来る前に音声と画面でお知らせ。高度利用者向けの緊急地震速報データを利用しているので、テレビや携帯電話より約8.5秒※早く地震情報をキャッチできます。 ※震源地との位置関係により前後します。





環境事業

企業や学校と共に
環境へのアクションを続けています



直需一部
第1チーム
上原 晶

森と人をつなぐ大きな「環(わ)」をめざして

当社は国内の洋紙代理店として初めてFSC® 森林認証を取得。FSC森林認証紙の販売のほか、間伐材を有効活用した森林保全の支援や使用済み紙製品の循環システム構築など環境事業に積極的に取り組んできました。2015年からは、千葉大学環境ISO学生委員会と環境への意識を向上させるための製品を共同開発するなど環境をテーマに活動する学生たちとも連携を進め、幅広く展開しています。



Data to Print

効果を実感できるDM施策を
ご提案いたします



直需一部
第2チーム
宮本 英治

より深く より正確にユーザーに働きかけるバリアブル印刷

Data to Printは、データ主導による紙のダイレクトメールで、顧客データを分析し、販促シナリオに沿って一人一人その人に合った可変情報をタイムリーに届けられるコミュニケーションツールです。紙媒体の魅力を最大限に引き出し、より深くより正確にユーザーに働きかけます。



デオドバッグ®

育児や介護にがんばる人を笑顔にしたい

デオドバッグは、多層構造で内容物の臭気をほとんど外に漏らさない、紙おむつ用防臭袋です。酸素透過度が一般のポリエチレン (PE) の1/5,000以下の素材を組み合わせた複層構造。使用済み紙おむつをデオドバッグに入れて口を縛るだけで、嫌なにおいをほとんど通しません。高齢化が進む日本において、紙おむつの異臭は介護者の方々にとって大きな問題です。デオドバッグを導入した施設の方々からは絶賛の声を多くいただいております。今後ますますデオドバッグの必要性が高まっていくと考えています。



導入事例

現在、鳥取県の伯耆町では紙おむつをペレット化及び燃料化し、燃料としてバイオマスボイラーで使用する「紙おむつサーマルリサイクル」が確立されています。デオドバッグは同町の紙おむつ回収指定袋になっており、紙おむつリサイクルの「入り口から出口」までを繋ぐ重要な役割を果たしています。

「素材のちから」が
問題の解決につながっています



直需二部 第1チーム
石山 隆之



活動報告

日本は1人あたりの使い捨てプラスチックごみの発生量が世界第2位。

私たちが使っているプラスチックの50%は使い捨てです。

この問題に三菱製紙販売として何が出来るか、
課題解決に向けて取り組みを進めています。



長年培ってきた知識やノウハウを脱プラに活かすために

昨年6月の先進7カ国首脳会議で「海洋プラスチック憲章」が採択されたことをきっかけに、今年6月のG20サミットでは、2050年までに海洋プラスチックごみをゼロにする目標が導入されるなど、「脱プラスチック」への取り組みが世界中で加速しています。国連の推計によると、プラスチックごみの廃棄量は年3億トン。海への流出は年800万～1200万トンとの試算もあります。海洋汚染問題が世界的に深刻化する中、当社にできることは何か、社員が勉強会に参加するなどし、検討を進めています。



実際に外資系の外食チェーンではプラスチック製ストローから紙製ストローへの置き換えが進んでいます。紙を販売する当社だからこそ役に立てることがあるのではないかと、プラスチックごみ問題の課題解決に向けて、これからも取り組みを進めてまいりたいと思います。

管理部
総務・人事チーム
田中 智子



グローバル企業が率先して脱プラスチックへの取り組みを進める中、プラスチックの代替として紙が選ばれる場面も増えています。当社は、森の恵みを活用する企業として、長年環境保全に取り組んできました。その中で培ってきた知識やノウハウは、脱プラスチックへの取り組みにも活かせると考えています。この問題に関心を持つ様々なステークホルダーの皆さまと連携しながら、今後も課題解決のため活動してまいります。



いざ脱プラ！選ぶならFSC®製品！



FSC (Forest Stewardship Council®：森林管理協議会)は、森林管理および木材製品の製造・流過程の評価、認定、監督を行う国際機関のひとつです。適切に管理された森を「FM認証」、適切な管理のもと加工・流通を行う事業者を「CoC認証」で評価し、その2つをつなぐルートを通して作られた製品にだけFSCマークを付けることができます。つまり、FSCマークの付いた製品を選ぶことは、間接的に「適切に管理された森」を支援することに繋がります。

また、FSCは森林認証制度の中で唯一、国際社会環境認定表示連合 (ISEAL) のメンバーとなっており、世界自然保護基金 (WWF) などの環境保護団体が信頼性が高い森林認証制度として推奨しています。

プラスチックの代替品として紙を選ぶなら、トレーサビリティが確保されたFSC認証紙の利用を検討してみたいかがでしょうか。



SDGsと三菱製紙販売

2015年に国連サミットで採択された、持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)。持続可能な世界を実現するための17のゴールが設定され、地球上の誰1人として取り残さないことを誓っています。

当社は2002年にFSC CoC認証を取得し、環境事業の柱のひとつとしてFSC認証製品の普及・拡販に取り組んできました。17ある目標のうち、11個についてFSCがその目標達成に寄与するとされています。その他にも、当社が取り組む様々な事業や社会貢献活動がSDGsに貢献すると考えています。

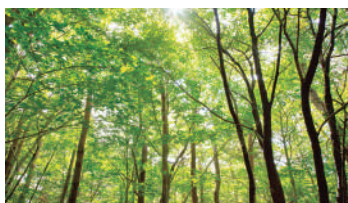
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



FSC認証の森から適切に伐り出される材木。



持続可能な森林の経営は、陸の豊かさに直結。



適切な雇用もSDGsのゴール(目標)のひとつ。

活動報告

みどりとふれあう フェスティバル



毎年4月15日～5月14日は「みどりの月間」となっており、その締めくくりとして森と花の祭典－「みどりの感謝祭」が開催されます。本祭典は式典と緑に関連する企業・団体が参加するフェスティバルで構成されており、2018年5月、三菱製紙グループとして「みどりとふれあうフェスティバル」に出展。三菱製紙の社有林であるFSC®の森で伐り出したFSC認証木材を使った、オリジナルキーホルダーをつくるワークショップを行いました。



環伐材プロジェクト



当社は、森の恵みを活用する企業として、社員自らが森に足を運び、森で学ぶという取り組みを進めてきました。その活動の中で培った経験を社外の皆さまにも発信していくため、森に足を運び、森の循環を体験し、環境保全への理解を深め、共感しあえる仲間たちと一緒に活動の環(わ)を広げていきたい、その熱い思いのもと昨年「環伐材プロジェクト」を始動しました。ご参加くださる皆さまと活動しながら、プロジェクトも成長させていきたいと考えています。



2018年開催のイベントの様子

エコシステム アカデミー(出前授業)



エコシステムアカデミーは、子どもたちやお客様への環境教育を通して森林保全に貢献することを目的に設立され、三菱製紙グループ全体で取り組んでいます。2016年より工学院大学が主催する科学教室でエコ推進委員会の演説をサポートし、紙抄きのレクチャーやFSCの森を体験してもらうなど取り組みを進めています。



エコシステムアカデミーの様子



八戸事業所無災害記録



八戸事業所では製紙用工業薬品の製造を行っていますが、1969年9月6日より50年間無災害を継続し、2019年2月20日で無災害記録100万時間を達成いたしました。従業員ひとりひとりが安全作業を心がけ事故防止に努力したことを評し、また今後も無災害を継続していくことを期して表彰いたしました。



育児・介護休業



当社は、育児・介護休業制度や時間単位年休制度を設け、様々なかたちで従業員の仕事と家庭の両立支援を行っています。今後も、すべての従業員が子育てや介護をしながら働き続けることができる職場環境をめざして整備を進めていきます。

	2016年	2017年	2018年
育児休業取得者数	4名	4名	5名
介護休業取得者数	0名	0名	0名



社員の声

管理部 総務・人事チーム
宮本美奈子

2014年と2018年に育児休業制度を利用しました。現在は時短勤務で働いています。周りには子育て中の先輩社員も多く、皆さん理解があるのでとても有難く思っています。今後もこの環境に甘えることなく、自分にできることは何かを考えながら、精一杯子育てと仕事の両立に励みたいと考えています。

障がい者雇用



法定雇用率には達していませんが、2016年度に新たに2名を採用しました。それに伴い、当社では障がい者職業生活相談員を選任し、障がい者の業務のサポート・指導だけでなく、普段の生活の相談にも対応し、長期就労ができる環境づくりに努めています。

	2016年	2017年	2018年
当社雇用率	0.74%	1.54%	1.76%
法定雇用率	2.0%	2.0%	2.2%

継続雇用制度



当社は継続雇用制度を導入しています。この制度により、定年をむかえた従業員の雇用を確保するとともに、多様な人材の活躍を支援し、豊富なノウハウを次世代へ引き継いでいます。

	2016年	2017年	2018年
再雇用実績	14名	14名	6名



会社概要

社名	三菱製紙販売株式会社 Mitsubishi Paper Sales Co.,Ltd.
代表者	取締役社長 半田 常彰
創業	1912年(明治45年) 2月
設立	1956年(昭和31年) 8月
決算期	3月
資本金	6億円
主な事業内容	● 紙類、パルプ、不織布、合成樹脂製品及び紙料等の売買 ● 薬品類及び毒物劇物の製造並びに売買 ● 各種メディアの企画、立案、編集等の製作業務 ● 医療機器、健康器具、防災器具等の販売並びに賃貸 ● LED照明設備、その他電気・空調工事に関する設計、施工、工事管理の請負 ● 環境、CSR並びに取扱商品等に関するコンサルティング業務
従業員数	190名(平成31年3月31日現在)
株主	三菱製紙株式会社、王子ホールディングス株式会社
主な取引銀行	(株)三菱UFJ銀行、農林中央金庫、三菱UFJ信託銀行(株)

売 上 2019年3月期(2018.4~2019.3)

売上高	95,556,626千円	洋紙	71,544,478千円 (74.9%)
		板紙	5,225,736千円 (5.5%)
		パルプ	890,407千円 (0.9%)
		薬品	8,940,112千円 (9.4%)
		その他	8,955,891千円 (9.3%)

事業所一覧

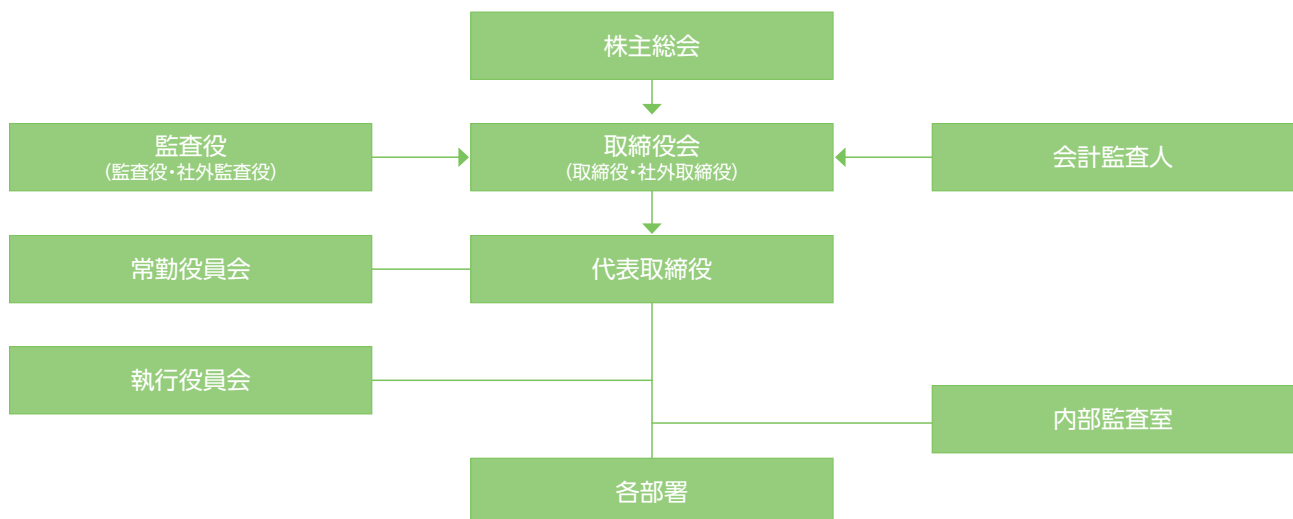
	住 所	電話番号	FAX番号
本 店	〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目10番14号	03-5625-8701	03-5625-8741
大阪支店	〒541-0044 大阪市中央区伏見町二丁目1番1号 三井住友銀行高麗橋ビル3階	06-6228-1141	06-6228-1161
名古屋支店	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋ダイヤビル	052-563-7561	052-563-6857
東北支店	〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野一丁目11番1号 ダイヤミックビル	022-295-7710	022-295-7730
九州支店	〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目15番6号 綾杉ビル	092-771-1531	092-714-7197
八戸事業所	〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼	0178-29-2551	0178-29-2751
関連会社 株式会社カツマタ	〒351-0031 埼玉県朝霞市宮戸1678番5	048-487-6050	048-487-6055



沿革

明治45年	2月	三菱製紙所(現在の三菱製紙株式会社)の西日本地区販売代理店として菱三商会創業(資本金15万円)
大正6年	9月	合資会社に改組 資本金20万円
昭和31年	8月	株式会社菱三商会設立 資本金250万円
昭和31年	11月	合資会社菱三商会を合併 資本金500万円
昭和36年	4月	福岡出張所(昭和58年九州支店に昇格)を開設
昭和39年	6月	三菱製紙株式会社代理店(東日本地区)株式会社東栄商会を合併し、以後全国販売代理店となる(資本金7,500万円)
昭和41年	5月	八戸出張所を開設
昭和42年	4月	京都出張所を開設
昭和47年	4月	株式会社カシワを合併:資本金を3億円とし三菱製紙販売株式会社と改称
昭和47年	10月	仙台(昭和58年東北支店に昇格)及び、広島駐在員事務所(昭和57年出張所に昇格)を開設
昭和48年	4月	名古屋駐在員事務所(昭和56年支店に昇格)を開設
昭和49年	7月	大阪市中央区久太郎町一丁目に三菱紙販ビル(大阪支店)竣工
昭和51年	12月	札幌出張所を開設
平成元年	3月	資本金を6億円に増資
平成9年	8月	東京都中央区京橋二丁目に三菱製紙販売ビル竣工(10月本店移転)
平成13年	10月	ISO14001(EMS)認証を本店にて取得
平成14年	4月	京都出張所を大阪支店に統合
平成14年	5月	FSC® CoC認証取得
平成14年	10月	ISO14001(EMS)認証を大阪支店、名古屋支店、東北支店、九州支店にて取得
平成18年	4月	広島出張所を閉鎖
平成18年	7月	三菱商事パッケージング株式会社洋紙事業部門を統合
平成19年	10月	北越製紙株式会社(現在の北越コーポレーション株式会社)と代理店契約を締結
平成29年	4月	本店が中央区ワーク・ライフ・バランス推進企業に認定
平成29年	11月	ISO27001(ISMS)認証を本店にて取得
平成30年	9月	大阪支店を大阪市中央区伏見町二丁目に移転
平成31年	1月	王子製紙株式会社と代理店契約を締結
平成31年	3月	札幌出張所を閉鎖
令和元年	5月	本店を東京都墨田区両国二丁目に移転

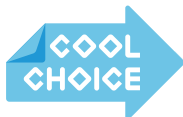
コンプライアンス推進体制





Web版 <https://www.mitsubishi-kamihan.co.jp/>

右記QRコードからもアクセスできます。▶



未来のために、いま選ぼう。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。